



当プレスニューズレターでは、東京文化発信プロジェクトの多様な事業を、さまざまな切り口からご紹介しています。

平成 22 年 11 月 29 日
東京文化発信プロジェクト室
(公益財団法人東京都歴史文化財団)

CLOSE UP
INTERVIEW

東京アートポイント計画『TERATOTERA』チーフディレクター・インタビュー

点と点を結びつけ、地域を再構築。 最先端のアートエリア創造プロジェクト。

『TERATOTERA (テラトテラ)』は、「東京文化発信プロジェクト」が進めている「東京アートポイント計画」事業のひとつ。一般社団法人TERATOTERAとの協働で、JR中央線の高円寺駅から吉祥寺駅間を中心とした杉並区・武蔵野市エリアを舞台に展開する、地域密着型のアート発信プロジェクトだ。チーフディレクターである小川希さんに、プロジェクトの意図や現在の展開状況についてお話を伺った。

中央線沿いの個性的スポットを アートを核につなぐ試み

高円寺駅から吉祥寺駅にかけての中央線エリアは古くから多くの芸術家や作家が暮らし、現在も個性的なギャラリーやカフェ、劇場、ライブハウスなどが揃う場所だ。『TERATOTERA』とは高円寺と吉祥寺の“寺と寺”を結ぶことからつけた名。テラ=地球・大地をつなぐ意味もある。「この地域にはいわゆる美術関係に限らず、音楽、演劇、ファッション、映画など広い意味でのアートに関わっている面白い人たちがたくさんいます。けれども個々が独立して点在し、“全体感”がない。『TERATOTERA』は、こうした既存の人や場をつないでひとつの文化を形づくり、ここから現在進行形のアートを発信していこうというプロジェクトです」と小川さん。

実は小川さん自身、元々ファインアートの作家だ。長年、アートと社会の関係を考える中で、若手アーティストによる独自のプレゼン・評価システムを取り入れた大規模展「Ongoing」を2002年から2006年まで開催。その後は吉祥寺にてギャラリー・カフェ・ライブラリーを複合したスペース「Art Center Ongoing」を運営し、さまざまなイベントも企画するなど、アーティストとプロデューサー双方の視点から、社会に向けて開かれたアート活動を模索してきた。「アーティストが一般社会と切り離された関係ではいけない。

それぞれの人や場が閉じた世界でやっていくのではなく、互いにつながり、社会への広がりを持つことが大切です。こうした取り組みを続けてきたことで、東京文化発信プロジェクト室からも協働の声をかけていただきました」

現在進行形のアートを発信する 新エリアを創出したい

プロジェクトを構想するにあたって考えたのは、東京には突出した盛り上がりを見せるエリアがないということ。例えばロンドンやニューヨークなら、今そこに行けば最先端のものが集まっていると言えるエリアがある。東京はどこに行ってもある程度の楽しみが揃っているが、平板な印象は否めない。

「老舗ギャラリーが集まる地域や大きな美術館はあっても、“今のアートを見るならここ!”という場がない。しかし、見渡してみれば高円寺から吉祥寺の一带には、各駅にさまざまな活動をしている人たちがいます。この“資源”をつなげば、いつも面白いことに出会えるような突出したエリアが形成できるのではないかと。『TERATOTERA』は、そんな発想から生まれました」

海外を見ると“今ここが熱い”とされるエリアは時とともに移り変わっていくものだが……。 【P2に続く】

おがわのぞむ
小川 希

『TERATOTERA』チーフディレクター。2002年から2006年まで若手アーティストを対象とした公募展「Ongoing」を主宰。2008年に「Art Center Ongoing」を設立。「東京文化発信プロジェクト」では人材育成プログラム「アートプロジェクトの0123」講師も務める。



「それでいい。ある時代を代表するムーブメントとはそういうものです。“2010年から2012年にかけて、あの地域は熱かった”という記憶を残したいですね」

仲間内で閉じることなく、広がり重視する——それは『TERATOTERA』プロジェクトにおいても原則的なスタンスだ。小川さんは、ジャンルを超えて、エリア内で活動するさまざまな人に会い、その思いを知ることから始めた。

「いろいろな人が集ってコミュニケーションして……ということ」が基本。ジャンルが違えば難しい面もありますが、まずは相手を知り、また我々がめざすものを知ってもらおう。その上で持てるものを出し合っ一緒に企画を考えていく。互いに組むことで何かを生み出していかなければ、このプロジェクトの意義はありませんから」

個々の多彩な活動をつなぎ 社会に開くことで生まれる文化

現在、『TERATOTERA』とコラボレートする店舗や団体は、高円寺、阿佐ヶ谷、荻窪、西荻窪、吉祥寺の各駅にある。ギャラリー、本屋、カフェ、劇場、映画館、ライブハウス、ファッションブランド、野外展など内容は多彩だ。今年3月に開催した初の公開イベント「TERATOTERAお披露目の日」には、これら地域のアートスペース関係者や縁のあるアーティストが集い、シンポジウムやライブパフォーマンスを実施。約260人の来場者で大いに賑わった。

一般参加者を募ってエリア内のスポットを訪ねる「途中下車の旅」も、6月からスタートしたプログラムのひとつ。今年度は全7回の開催で、11月は都立善福寺公園の野外展「トロールの森2010」に出かけて、まちと自然をアートでつなげる可能性を探り、12月には“町をみる”をキーワードに、西荻窪の洋服店でのアート展に合わせて3日間にわたるトークショーを行う予定だ。

「参加者は若い人が中心ではありますが、年齢層は幅広いですね。皆、アートを通してなにかしらの関係性を持ちたいと感じているようです。アートを媒介に人と人が集うという点は、まさに『TERATOTERA』が意図しているところ。「途中下車の旅」も、ここから何が生まれていくか、地道に積み重ねていくことに意味があるのだと思います」

『TERATOTERA』には、「テラッコ」と呼ぶインターン&ボランティアスタッフのシステムもある。

「この地域に興味を持って集ってくれる人はみんなテラッコ。より深く関わりたい人は手伝ってくれればありがたいですし。今は約40名が登録しています。でも僕の立てている



「TERATOTERA 途中下車の旅 vol.1」の様子

目標は1000人なんですよ。無謀な数字かもしれませんが、それだけ集まれば何でもできると思って。まあ野望みたいなものですね」

テラッコ達は毎週ミーティングを行い、コミュニケーションを深めるとともに、この地域で何ができるかを話し合う。それは次世代の担い手を育てる試みでもある。

「こちらが気づかされるようなことも多いです。いずれはテラッコ主導の企画もなにか実現させたいですね」

また、来年2月には今年度の集大成として、吉祥寺・都立井の頭恩賜公園での「TERATOTERA祭り」も予定している。公園の池に舟を浮かべ、世界的に活躍する音楽家・大友良英氏の水上ライブを開催する計画だ。

自身の「Art Center Ongoing」の運営でも多忙な小川さんだが、「まったく別個の活動ですが、見ていく方向は同じです。“わかる人にはわかる”といった意識でやってはだめ。作家側も見る側も、アートがコミュニケーションツールとして機能することにもっと自覚的でありたいですね。都の事業として取り組むこの機会に、“TOKYOに行ったらまずはTERAへ”みたいな世界に誇れる求心力のあるエリアを創り出したい」と言う。

寺-寺を核としたアートの広がりが、きっと、東京の新しい魅力を生み出していく。

●イベント概要

TERATOTERA 途中下車の旅

日時・会場 ※No.1~4までは終了

No.5 12月4日(土)、5日(日)、11日(土) STORE(西荻窪/洋服店)

No.6 12月17日(金) 武蔵野公会堂(吉祥寺/劇場)

No.7 1月8日(土) 荻窪ベルベットサン(荻窪/ライブスペース)

TERATOTERA 祭り

日時・会場

平成23年2月5日(土) 都立井の頭恩賜公園(吉祥寺)



東京の外国人が見る“東京文化”

今年度は、東京都の姉妹友好都市のある国の方々に話を伺っていきます。

東京にいる間は“通りすがり”でなく、日本人の暮らし、生き方まで見てみたい

約100年前に始まった移民の歴史を経て、日本とブラジルは長い親交を育んできました。そこで今回は、駐日ブラジル大使館の文化広報担当官であるイザベラ・メデイロス・ソアレスさんに、東京文化の魅力やサンパウロ州の文化的特徴について伺いました。



Isabela Medeiros Soares
イザベラ・メデイロス・ソアレス

ブラジル大使館 一等書記官 文化広報担当官
ブラジリア総合大学 国際交流科を卒業し、
外務省国際政治部に勤務。2008年4月に来日。

どのような文化的ニーズにも応える東京

——東京にお住まいになって、どれくらいになりますか？

2008年4月に始めた東京生活も2年半が過ぎました。3度目の来日ですが、このような長期滞在は初めて。東京をよく知るため、日頃からさまざまな場所に出掛けています。

その中で何よりも感じているのは、東京は真の大都会であるということ。これまで色々な都市を見てきましたが、その中でも特別だと思います。何を食べるにも世界中のレストランが揃っていますし、アートを観ようと思えば、いくつものギャラリーや美術館、博物館がある。文化的なニーズにいつも応えてくれる街ですね。

けれども、そういった現代的な顔を見せる一方で、伝統的な文化が未だ残されていることには驚きます。これだけの大都市で、現代と伝統の共存しているところこそが、東京の文化的魅力だと思います。

——何かお好きな東京文化はありますか？

たくさんありますが、一番は歌舞伎です。来日してからの1年半は、毎月のように歌舞伎座へ通いました。坂東玉三郎さんのファンで、『鷺娘』を観た時には幻想的な世界へ導かれるような、心打たれる体験となりました。

次は文楽を観たり、三鷹の森ジブリ美術館にも行ってみたい。東京にいる間は“通りすがり”でなく、日本人の暮らしや生き方まで、できる限り見ておきたいと思っています。

——そのように日本へ強い関心を持ったきっかけとは？

私の世代にとってマンガやテレビアニメなどの日本の大衆文化は身近な存在でしたから、ポルトガル語訳のアニメはよく見ていました。面白いことに、登場人物の話し方や態度がブラジル人とは全く異なり、私にとっては新しい世界が広がるきっかけとなりました。その後、外務省時代には、日本に滞在経験のある親友から日本の素晴らしさを聞くうちに、ますます好奇心が膨らんで。ですから、現在日本で働いているのは、念願叶ってのことなんです。

現代アートで盛り上がるサンパウロ

——東京都とサンパウロ州は姉妹友好都市ですが、どのような文化的特徴がありますか？

特に州都のサンパウロ市はブラジルの中でも大都市で、文化レベルも高く、東京と似ている点も多いですね。アートがとても盛んな街で、現在開催中の「サンパウロ・ビエンナーレ」は、世界的に有名なイベントです。ここでは20世紀初頭に現代アートの流派がいくつも生まれ、その後ブラジル全体に広がりました。現在では、若者たちが発信するストリート・アートが注目されており、国際的なアーティストも輩出しています。中でもOS GEMEOS (オスジェミオス) という双子のユニットは、スプレーやペイントローラーを使って壁に描くファンタジックなグラフィックで大変人気です。

——一方、伝統的な文化はどのように残されていますか？

ブラジルでは、日本のように伝統を守るのとは違い、文化にしても必ず誰かが手を加えて、進化させていきます。例えば、日本の皆さんが好む60年代のボサノバ音楽は、現地ではあまり聴かれません(笑)。代わりに、エレクトロニックな楽器を使った進化系のボサノバが現代の主流になっているんですよ。

——日本での文化発信についてお聞かせください。

大使館では、日本で行われるブラジル関連のイベントをサイトで紹介しているほか、音楽やカポエイラ(*1)等の文化についてまとめた冊子も制作しています。また、12月には60年代の映画運動「シネマ・ノーヴォ(新しい映画)(*2)」で生まれた映画の上映イベントを渋谷で開催します。

20世紀初頭に日本人がブラジルに渡ったことで、日本の文化も伝わりました。それは、ブラジル周辺国にはない特徴です。実際、サンパウロ市にはシュラスコ(*3)専門店よりも、和食店のほうが多いほど。それだけ日本の文化はブラジルの中に根付いています。ですから今度は逆に、ブラジルの文化を日本へ広く紹介していきたいですね。

*1 独特の伴奏が付く、儀式的な格闘技ダンス。 *2 フランスのヌーベルバーグにインスピレーションを得た映画における改革運動。 *3 ブラジルの代表的な肉料理のひとつ。
ブラジル大使館公式サイト: www.brasemb.or.jp

EVENT PICK UP

イベントピックアップ

FESTIVAL

東京発・伝統WA感動
東京大茶会2010

茶の湯文化をもっと身近に。 外国人も楽しんだ秋の大茶会

憧れはあっても、普段あまり馴染みのない茶の湯文化を気軽に親んでもらうイベントとして、今年で3年目の開催となる『東京大茶会』。夏の名残を感じる陽気の下、江戸東京たても園(小金井市)、浜離宮恩賜庭園(中央区)の2会場・計4日間で約17,000人が訪れました。

10月16日(土)、17日(日)に会場となった浜離宮恩賜庭園では、着物姿の女性や外国人観光客の姿が目立ちました。同会場では、外国人のための「イングリッシュ野点」が午前中に4回設けられ、英語通訳の解説が付き、お茶の文化や作法が紹介されました。熱心に見入る参加者からは、「このようなスタイルが確立したのはいつ頃なのか?」「現代の日本の暮らしに、お茶はどれくらい浸透しているのか?」といった質問がありました。初め



て茶席に参加したというドイツからの観光客は、「一つひとつの所作に理由があって、流れるような一連の世界になっているのが素晴らしい」と茶の湯への関心を高めていました。

FESTIVAL

東京アートミーティング
トランスフォーメーション

パルムドール受賞作家による アーティストトーク盛況

東京都現代美術館で1月30日(日)までの期間で開催されている『東京アートミーティング トランスフォーメーション』。

出展アーティストたちによる関連イベントのひとつとして、11月19日(金)、タイ出身の映像作家 アピチャップン・ウィーラセタクンさんによるアーティストトークが開催、約200名が参加し会場はほぼ満席となりました。

今年のカヌ国際映画祭パルムドールを受賞した「ブンミおじさんの森」の着想やブンミおじさんをたどる旅のエピソードといった制作過程をはじめ、激しい変貌をとげているタイ北東部への思い、自然と人間との関係性への関心、一般の人たちとつくり上げる自身の制作手法などが、豊富な画像・映像とともに語られました。



会場からは、「“ブンミおじさん”のきっかけとなった本はどのようなものか」「制作のどの時点で長編の流れを決めるのか」といった質問が上がり、高い関心を集めていました。

ARTPOINT

東京アートポイント計画
川俣正・東京インプログレス——つくるワークショップ

ミニチュアの塔づくりから 暮らす街の「未来」を考える

美術家の川俣正さんによるプロジェクト『川俣正・東京インプログレス』の一環として、地域の小学生を対象に“つくるワークショップ”「手のひらの塔」が、10月31日(日)に開催されました。ミニチュアの塔づくりを通じて、自分の街の「未来」に関心を高めてもらうための参加型プログラムです。

会場となった、東京スカイツリー建設予定地近くの荒川区立汐入東小学校体育館には、約100名もの小学生が集まりました。講師の宮元三恵さん(東京工科大学准教授)と、世界の様々な塔をスライドで見て塔のイメージをふくらませたあと、骨組みとなる木製の円柱に、モール、毛玉、ストローなど、子供たちが家から持ち寄った材料を飾りつけ、いろいろな塔をつくっていきます。つくった塔は、「未来へのお土産」として、子供たち自身によって作ら



れた箱の中へ。これらの塔は、再び子供たちによって持ち寄られ、川俣さんが1月につくる木造の塔に飾られる予定です。

KIDS

ミュージック&リズムSTOKYO KIDS
「地球の風 東京から」発表コンサート

子供たちが自作の楽器で プロと奏でた“地球音楽”

鬼太鼓座、バンブーオーケストラなど世界で活躍する演奏家たちの指導のもと、自然の中で竹を使った楽器をつくり、音楽を創り出すワークショップ『ミュージック&リズムSTOKYO KIDS』。その集大成となる「発表コンサート」が、9月26日(日)東京都庁前 都民広場で行われました。

コンサート前の子供たちは、自分で絵を描いた打楽器のバンブースティックや、息を吹き込んで音を出す竹ボラなどの音の鳴りを確かめたりとリラックスムード。13時からはプロの演奏が始まり、和太鼓、エイサー、韓国のサムルノリなどのパフォーマンスに、子供たちを始め会場のテンションも上がります。そして15時、子供たちが主役のコンサートがスタート。赤、白、青、黄、緑の5グループが、自慢の手作り楽器でプロと大合



奏を繰り広げました。世代やジャンルを超えた迫力ある演奏に、会場は一気にヒートアップ。まさに“地球音楽”ともいえる感動のステージが展開されました。

事業予定カレンダー 12月～1月 Program Calendar Dec.-Jan.

	12月	2011年1月
フェスティバル FESTIVAL	東京アートミーティング トランスフォーメーション Tokyo Art Meeting "Transformation" 10/29～1/30 東京都現代美術館、東京藝術大学 Oct.29-Jan.30 Museum of Contemporary Art Tokyo, Tokyo University of the Arts	
	Trans-Cool TOKYO Contemporary Japanese Art from MOT Collection 11/19～2/13 シンガポール美術館 Nov.19-Feb.13 Singapore Art Museum	
		芸術監督セレクション Artistic Director's Selection 1/25～2/13 「チェーホフ?!」 東京芸術劇場 Jan.25-Feb.13 "Chekhov?!" Tokyo Metropolitan Art Space
キッズ KIDS	東京文化会館 青少年のための舞台芸術体験プログラム Tokyo Bunka Kaikan Open Rehearsal for Students 12/17 東京バレエ団「M」、 12/20 東京都交響楽団 第709回定期演奏会、 1/14 ベルリン国立バレエ団「シンデレラ」 Dec.17 "M" by The Tokyo Ballet Dec.20 Subscription Concert No.709 by Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra Jan.14 "CINDERELLA" by Staatsballett Berlin	
	パフォーミングキッズ・トーキョー Performance Kids Tokyo 練馬文化センター：ワークショップ 1/16～2/26 の期間内の9日間、 発表 2/27 Jan.- Feb./Nerima Bunka Center	
	東京発・伝統WA感動 キッズ伝統芸能体験 Traditional Performing Arts for Kids 9月～3月 お稽古／都内8カ所 Sep.-Mar. Lessons in 8 places in Tokyo	
アートポイント ARTPOINT	川俣正・東京インプログレス Tadashi Kawamata Tokyo in Progress 12/11 つくるワークショップ「塔の影をつくる」／都立汐入公園他 12/12, 18, 19 絵本ワークショップ「塔のお話を描く」／汐入小学校 1月～3月 タワーコンストラクション／都立汐入公園 Dec.11 Creating a Shadow of Tower Workshop/Metropolitan Shioiri Park Dec.12,18,19 Picture Book Workshop/Shioiri Elementary School Jan.-Mar. Tower Construction/Metropolitan Shioiri Park	
	TERATOTERA 途中下車の旅 Stopover Tour 12/4, 5, 11 STORE (西荻窪)、 12/17 武蔵野公会堂 (吉祥寺)、 1/8 荻窪ベルベットサン (荻窪) Dec.4,5,11 STORE Dec.17 Musashino Public Hall Jan.8 Ogikubo velvet sun	
	[Tokyo Art Research Lab] Talk & Cast ～世界の現場から～ Talk & Cast ～ From art fields in the world ～ 12/6 「大巻伸嗣 in シンガポール」 Tokyo Artpoint Project Room 302 (アーツ千代田 3331) Dec.6 "Shinji Ohmaki in Singapore" Tokyo Artpoint Project Room 302 (3331 Arts Chiyoda)	墨東まち見世 2010 BOKUTO MACHI MISE 2010 1/10～16 (1/13のみ休演) 「墨田区在住アトレウス家 Part2+Part3」 旧アトレウス家ほか Jan.10,11,12,14,15,16 "The House of Atreus, Sumida-ku, Tokyo Part2-Part3" The Old Atreus House and others
	[Tokyo Art Research Lab] アート活動のためのキャリア支援プログラム Career support program for art activities 12/12, 1/16 「アートの法律クリニック」／Tokyo Artpoint Project Room 302 (アーツ千代田3331) Dec.12, Jan.16 "Art Law Clinic" Tokyo Artpoint Project Room 302 (3331 Arts Chiyoda)	イザ!カエルキャラバン! in 東京 IZAI! Kaeru Caravan! in Tokyo 1/29 vol.7—多摩 Jan.29 vol.7-Tama
	岸井大輔プロジェクト「東京の条件 2010」 Kishii Daisuke Project THE TOKYO CONDITION 2010 12/18 「総会」／Tokyo Artpoint Project Room 302(アーツ千代田 3331) Dec.18 General Meeting/Tokyo Artpoint Project Room 302 (3331 Arts Chiyoda)	
	学生とアーティストによるアート交流プログラム Student & Artist Partner Ships 11月～3月 「小金井110人のリレートーク」／小金井アートスポット シャトー2F 10月～3月 「墨東大学」の実践と評価／墨東大学 Nov.-Mar. "Relay Talk by 110 People in Koganei"/Koganei Art Spot Chateau 2F Oct.-Mar. Practice and Evaluation of "Bokuto Univ."/Bokuto University	

東京文化発信プロジェクトとは

東京文化発信プロジェクトは、世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信、芸術文化を通じた子供たちの育成、多様な地域の文化拠点の形成を目的として、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体、アートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。

演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野のイベント、まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、子供向けの体験型プログラムなどの事業を展開しています。

報道関係者からの問い合わせ先

東京文化発信プロジェクト広報事務局
 担当：富樫／大原
 電話：03-3818-2465
 FAX: 03-5689-0455
 E-mail: tokyobunka@prinfo.co.jp